



令和4年度
防災活動研修会支援助成事業実施報告書

災害に強いまちづくり 全道運動

一般社団法人 北海道町内会連合会

はじめに

北海道町内会連合会では、全国各地で度重なる台風や地震、豪雪等による被災を教訓に、平成17年度より「災害に強いまちづくり」をテーマにした全道・ブロック別町内会活動研究大会、研修会の開催、さらに、防災活動研修会支援助成事業を通じて、住民による自主防災活動を推進してきました。

これらの取り組みは、東日本大震災を教訓に平成23年度より「災害に強いまちづくり全道運動」として位置付けて、事業を推進しています。

「防災活動研修会支援助成事業」は、安心・安全な町内会活動を応援するため、見舞金制度「道町連共済」の会費収入を財源に「会員還元事業」として、平成17年度にスタートし、単位町内会等の住民自治組織において実施される防災訓練や自主防災組織研修会を支援しています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため助成を中止し、令和3年度、令和4年度は新型コロナウイルス感染予防に配慮しながら研修会をすすめていただくようご案内しました。

17年目になる令和4年度は、正会員として所属の21市区町村において37の研修会が取り組まれました。

令和4年度の研修会の多くは、地域住民に対する防災意識の啓発を目的として、行政、消防署、警察署等との連携・協力により実施されました。

本書は、家庭や地域での防災意識を高め、いざという時に地域住民が互いに助け合い、支え合える関係づくりを願い、37研修会の実施内容をデータにまとめ、会員組織をはじめ多くの方々にご覧いただけるよう、本会ホームページに掲載いたしました。

終わりにになりましたが、本書を作成するにあたり、報告書のとりまとめにご協力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

一般社団法人
北海道町内会連合会
会長 長谷川 敬二

目次

はじめに

1

1. 令和4年度の実施状況

3

2. 令和4年度実施状況一覧

4

3. 37研修会の概要

5

4. 令和4年度防災活動研修会支援助成事業実施要綱

24

5. 「防災活動研修会支援助成事業」これまでの指定状況一覧

26

防災活動研修会支援助成事業 令和4年度の実施状況

1. 防災活動研修会支援助成事業とは

北海道町内会連合会では、全国各地で度重なる台風や地震、豪雪等による被災を教訓にして、平成17年度より「災害に強いまちづくりをめざして」をテーマに、町内会の防災に関する広報活動、研修会の開催、さらに、防災活動研修会支援助成事業を通じて、住民による自主防災活動を応援してきました。

これらの取り組みは、東日本大震災を教訓に平成23年度より「災害に強いまちづくり全道運動」として位置付けて、事業を推進しています。

本助成事業は、安心・安全な町内会活動を応援するため、見舞金制度「道町連共済」の会員還元事業として、平成17年度にスタートし、単位町内会等の住民自治組織において実施される防災訓練や自主防災組織研修会に対して2万円を助成しています。

2. 令和4年度は37組織に助成

本事業17年目の令和4年度は、正会員として所属の21市区町村の単位町内会31組織、地区連合会6組織の37の組織において主催・共催実施されました。

「防災活動研修会支援助成事業」 (組織)

実施組織 年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22
単位町内会	21	38	38	70	58	61
地区連合会	10	13	10	16	19	31
連合町内会	13	9	10	14	8	5
計	44	60	58	100	85	97

「災害に強いまちづくり全道運動」として位置づけ推進 (組織)

実施組織 年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4
単位町内会	61	69	68	78	70	67	70	63	74	34	31
地区連合会	22	13	22	19	23	23	22	27	16	5	6
連合町内会	14	12	10	4	8	9	8	10	14	2	—
計	97	94	100	101	101	99	100	100	104	41	37

3. 令和4年度の取り組み状況

研修会は、大規模地震災害、津波、台風による水害等を想定した防災訓練が多く、行政、消防署、警察署等との連携・協力により実施され、コロナ禍での避難所開設や運営、屋外活動の規制緩和により防災まつりの実施、防災ゲームを通じて親子で防災の知識を得てもらうなどの取り組みが見られました。令和4年度に取り組みされた研修会は、次頁の「令和4年度実施状況一覧」のとおりです。

令和4年度実施状況一覧

市区町村名	組織名	研修会名	頁
北区	新琴似連合町内会	防災防犯研修会	5
北区	中央・東ブロック新琴似4番通第2町内会他	防災活動研修「避難所運営研修」	5
北区	Sタウン町内会	Sタウン自主防災組織における防災講習会	6
豊平区	笑福3自治会	防災研修	6
豊平区	月寒東236町内会	月寒東236町内会防災訓練	7
豊平区	月寒F4町内会	防火・防災訓練	7
豊平区	豊平地区町内会連合会	豊平地区旭小学校基幹避難所開設訓練	8
豊平区	豊平第12分区町内会	豊平第12分区町内会自主防災訓練	8
南区	富士見町内会	富士見町内会防災研修会	9
函館市	柏木町会	柏木町会防災訓練	9
函館市	中央地区第5方面協議会	炊き出し訓練	10
小樽市	石山町会	石山町会防災研修会	10
小樽市	入船六三町会	入船六三町会防災研修会「地域のできる防災対策」	11
小樽市	東小樽町会	小樽市の防災体制と我が家の防災対策講習会	11
芦別市	西宮元町町内会	災害時要援護世帯調査・マップづくり	12
芦別市	野花南町町内会	防災活動研修会	12
江別市	高砂町自治会	コロナ下での災害に備える高砂町自治会防災訓練	13
三笠市	幾春別連合町内会	防災活動講習会	13
三笠市	山の手連合町内会	未来に向かって支え合うまちづくり	14
三笠市	萱野連合町内会	避難所生活を体験してみよう！	14
千歳市	寿町内会	寿町内会防災訓練（KSセーフティネット作戦）安否確認	15
千歳市	福住町内会	福住町内会防災組織訓練	15
恵庭市	島松旭町町内会	防災まつり（防災訓練）	16
恵庭市	駒場町北町内会	防災訓練	16
恵庭市	大町町内会	防災訓練	17
当別町	緑町町内会	応急手当研修会	17

市区町村名	組織名	研修会名	頁
倶知安町	新東和会	第2回新東和会避難訓練	18
枝幸町	本幌別自治会	本幌別自治会防災会防災訓練	18
斜里町	朝日町第三自治会	朝日町第三自治会防災訓練	19
遠軽町	西学田自治会	西学田自治会防災避難訓練	19
洞爺湖町	泉区自治会	災害時の避難所運用対応に関する研修会	20
白老町	竹浦幌内東町内会	防災出前講座	20
白老町	未広町第2町内会	未広町第2町内会自主防災勉強会	21
白老町	虎杖浜第1町内会	防災津波に関する学習会	21
安平町	追分第2町内会	第2町内会自主防災組織運営会議及び救急救命研修会	22
本別町	南2丁目自治会	防災研修会	22
釧路町	遠矢町内会	自主防災研修会	23

●新琴似連合町内会

～災害・危機に備えて～

防災防犯研修会

【実施日】 令和4年10月28日（金）

【世帯数】 12,966世帯

【参加者】 55名（単位町内会長・防災防犯担当部長・地域推進安全委員）

【協力】 新琴似まちづくりセンター・札幌市危機管理局

【目的】 「安全で安心に暮らせる地域社会」をめざした地域安全運動の推進

◆研修会の主な内容

各単位町内会会長、防災防犯部長及び地域安全推進委員等が参加し、防災防犯に関する研修会を行った。

（研修会テーマ）

1. 災害・危機に備えて～地震・風水害・土砂災害等
2. 質疑応答

◆研修会の成果

「安全で安心に暮らせる地域社会」に対する防災防犯意識の向上をはかることができた。



災害から身を守る方法を学びました

●中央・東ブロック新琴似4番通第2町内会他

～避難所の運営を学ぶ～

防災活動研修「避難所運営研修」

【実施日】 令和4年8月4日（木）

【世帯数】 3,146世帯

【参加者】 33名（単位町内会役員・町内会会員）

【協力】 北区総務企画課・福祉保健課・新琴似まちづくりセンター・新琴似小学校

【目的】 災害発生時における避難場所の開設、運営、設備、災害備蓄の実態を学び、今後の自主防災組織の活動に資する。

◆研修会の主な内容

1. 災害発生時（地震、風水害）の感染対策を取り入れた避難所開設及び運営の仕方
2. 応急救援備蓄物資の備蓄状況、使用方法
3. 避難場所である札幌市立新琴似小学校の具体的な避難教室等、水道設備、発電機等備蓄物品の使用法並びに避難時の入場方法

◆研修会の成果

参加者は、災害時の自主備蓄準備、避難場所の小学校への入り方、避難場所の運営方法、具体的な備蓄品の場所、避難者どうしの協力等について学ぶことができた。



避難所運営ゲーム（HUG）の様子

■北 区

●Sタウン町内会

【実施日】 令和4年6月26日（日）

【世帯数】 487世帯

【参加者】 39名（町内会役員・会員）

【協 力】 札幌市市民文化局地域振興部区政課

【目 的】 防災意識を高め、災害危機に備えることを目的とする。

◆研修会の主な内容

Sタウンに合わせた内容の防災ビデオを作成し視聴した。

1. 火災時の初期対応について
2. 消火器の使い方
3. AEDの使い方
4. ベランダからの避難
5. 防犯について

◆研修会の成果

今後の災害危機に対する方法を知ることができた。



防災ビデオを作成して視聴した防災講習会

～防災ビデオの作成で災害危機に備える～

Sタウン自主防災組織における防災講習会

■豊 平 区

●笑福3自治会

【実施日】 令和4年11月6日（日）

【世帯数】 27世帯

【参加者】 10名（自治会住民）

【目 的】 月寒断層による地震に備えた防災意識の向上

◆研修会の主な内容

1. ポリ袋を使ってお米からご飯を炊く
2. ポリ袋を使って野菜ジュースと缶詰でパスタ作り
3. ポリ袋を使ってホットケーキミックスで蒸しパン作り
4. クロスロード（問題カード）で意見交換

◆研修会の成果

家族と一緒に住んでいる人、単身者等、それぞれの立場での意見交換をする中で、新たな発見をした人や今後の自治会としての防災に対する取り組みを考えたりする人もおり、参加者の意識向上を図ることができた。



ポリ袋を使った調理を体験

～ポリ袋の調理で防災意識の向上～

防災研修

■豊平区

●月寒東236町内会

【実施日】 令和4年10月30日（日）

【世帯数】 100世帯

【参加者】 20名（町内会内住民）

【協力】 豊平消防署、豊平区地域振興課

【目的】 町内会会員の防災意識の向上、各家庭の防災準備・震災時の食の工夫等、各家庭で話し合う機会をつくる。災害時に安全性を確認して避難するべきかを検討することの重要性、火災時の対応について啓蒙する。

◆研修会の主な内容

1. 講話「火事の予防と火事が起きた時の対応について」
実技「消火器の取り扱いと的あてゲーム」
豊平区消防署警防課
2. ロープワーク（もやい結び）
副会長、豊平消防署指導
3. 防災研修会（月寒東小学校）
参加報告 交通安全部長
4. 防災ビンゴ（防災クイズをビンゴ形式で）



消火器による的あてゲーム

◆研修会の成果

研修会后、家庭で防災について話し合い、自宅での備えを若い家族もするようになった。防災意識の向上が図られた。

～備えあれば憂いなし！～

月寒東236町内会防災訓練

■豊平区

●月寒F町内会

【実施日】 令和4年10月2日（日）

【世帯数】 27世帯

【参加者】 14名

【協力】 いちご自治会

【目的】 日々の防火の認識と災害への備え（備蓄等）、災害時要援護者への支援の確立。

◆研修会の主な内容

1. 札幌市の出前講座での研修会で、防災に対する認識が強まり、各自自分で出来る事から始まるようになった。
2. 火災に対する消火器の取り扱い方を復習。
3. 町連発行の防災ハンドブック活用で、火災の原因は何が一番多いのか、発生した時の避難方法等の復習。



札幌市の出前講座で認識を深める

◆研修会の成果

コロナ禍で出席人数も少なかった中ではあったが、札幌市危機管理局の方の研修は大変良かったと思う。毎年実施する必要があると思う。

～出前講座で災害への備え～

防火・防災訓練

■豊平区

●豊平地区町内会連合会

【実施日】 令和4年9月18日（日）

【世帯数】 9,902世帯

【参加者】 町連防災部員、単位町内会員96名

【協力】 豊平警察署、防災協会、豊平消防団レディース隊、豊平区、豊平まちづくりセンター、旭小学校、日赤奉仕団豊平分団

【目的】 地域の防災リーダーの育成、会員の自主防災意識の向上

◆研修会の主な内容

1. 4つのグループに分かれ、障がい者対応HUG実施訓練
HUG実施訓練避難所での運営、模擬連想訓練
2. 簡易トイレ（組立て、凝固体験）
3. ダンボールベッドの組立て実施
4. 消防レディース隊によるAED訓練
5. 防災用品の展示、説明
6. 豊平警察署による災害への備え（パネル展示）
7. 居住スペース体験、障がい者対応テント、簡易ベッド組立て



簡易トイレの組立てと凝固を体験

◆研修会の成果

HUG（避難所運営訓練）をすることで、具体的な課題をグループで話し合うこと、体験などを行うことで、各町内会の防災担当者に加え、参加者にも意識改革が図られた。

～障がい者にも対応した避難所運営訓練～

●豊平地区旭小学校基幹避難所開設訓練

■豊平区

●豊平第12分区町内会

【実施日】 令和4年10月2日（日）

【世帯数】 1,464世帯

【参加者】 町内会員67名

【協力】 豊平警察署、豊平消防分団豊平分団、豊平消防団レディース隊

【目的】 訓練や体験を通じた自主防災意識の向上

◆研修会の主な内容

1. 煙道訓練 火災時の煙による体験
2. 消火水バケツリレー
3. 避難所での占有居住スペース体験
4. 消防レディース隊によるAED訓練
5. 応急担架の作り方訓練
6. 防災機材の展示・説明

◆研修会の成果

町内会で自主防災訓練をすることで、住民の防災に対する意識改革が図られた。



消防レディース隊によるAED訓練

～避難所での占有居住スペースも体験～

●豊平第12分区町内会自主防災訓練

■南 区

●富士見町内会

【実施日】 令和4年10月2日（日）

【世帯数】 109世帯

【参加者】 町内会員49名

【協力】 札幌南消防署、藤野小学校

【目的】 災害時の要援護者の把握と防災避難訓練の実施。全世帯名簿の作成、災害時に介護が必要有無の確認、避難場所への避難の訓練、防災の基本知識を学ぶ。

◆研修会の内容

1. 世帯名簿の作成及び要介護者の確認
2. 班ごとに避難経路図に従って避難場所への避難の訓練
3. 藤野小学校にて防災備品・避難場所の体育館見学
4. 講座「住宅火災防止、災害時の対策」南消防署出前講座の実施
5. 講座「防災基礎知識」富士見町内会企画の実施
6. 富士見町内会防災機器（車椅子、担架、発電機等）の確認

◆研修会の成果

世帯名簿の作成により、要援護者の把握ができた。高齢者も含め大勢の方々が参加し、自分たちが日ごろから災害に備えておくことが大事であることを学ぶことができた。

～世帯名簿の作成と防災避難訓練～

富士見町内会防災研修会



出前講座で住宅に潜む火災危険と対策を学びました

■函 館 市

●柏木町会

【実施日】 令和4年9月16日（金）

【世帯数】 1,770世帯

【参加者】 町内会員35名

【協力】 三和防災（株）

【目的】 住民を災害から守るため、被害の防止及び軽減を図る。

◆研修会の内容

1. 避難訓練～2階ホールからの避難
2. 消火器の使用訓練
3. AEDの使用訓練

◆研修会の成果

防災意識と防災機器の活用意識の向上が図られた。

～非常階段を使って避難誘導～

柏木町会防災訓練



模擬消火器で初期消火を体験

■函館市

●中央地区第5方面協議会

【実施日】 令和4年8月29日（月）

【世帯数】 5,424世帯

【参加者】 女性部14名

【協力】 函館の地域福祉を考える会

【目的】 「いつもの食事」を「もしもの食事」に、災害食の調理実習（冷凍食品を使用して）

◆研修会の主な内容

1. まさかのために賢く備える：食に関する備え
避難生活で気を付けたいこと
水が不足しているときの調理の工夫
2. 炊き出し訓練を実施
メニュー：鯖缶カレー、オクラの和え物、
こんにゃくのみたらし風、
鍋炊きご飯

◆研修会の成果

災害時の炊き出しに対応する心構えの習得ができた。



もうすぐ出来上がりです「鯖缶カレー」

～災害時にも日常に近い食事を～

炊き出し訓練

■小樽市

●石山町会

【実施日】 令和4年10月30日（日）

【世帯数】 265世帯

【参加者】 町会住民45名

【協力】 小樽市防災対策室、小樽市消防署手宮支署、消防団第1分団、民生児童委員

【目的】 急傾斜地の多い当該地区で、居住する立地の格差（平地と山の上）の意識確認し、災害対策への理解の促進と心構え、初期対応など、日ごろからの備えの重要性を認識してもらうために実施する。

◆研修会の主な内容

1. AED作動、胸部圧迫訓練
2. 災害備品の確認
3. 簡易ベッドの組立て
4. アルファ米の試食など

◆研修会の成果

AED作動や簡易ベッドの組立てなど実際の作業を行うことで災害への備えの重要性を再認識でき、参加者全員の防災意識の向上につながった。



みんなで簡易ベッド2種類の組立て

～日ごろからの備えの重要性を学ぶ～

石山町会防災研修会

■小樽市

●入船六三町会

～もしもの備えと心がけ～

入船六三町会防災研修会「地域でできる防災対策」

【実施日】 令和4年10月1日（土）

【世帯数】 450世帯

【参加者】 町会住民21名

【協力】 入船地区連合町会、小樽市消防団第6分団、小樽市（災害対策室）

【目的】 東日本大震災や胆振東部地震、各地で起こる集中豪雨による被害での教訓から、地震や災害に備えるための研修と会館を避難所として運営するための訓練などを行う。

◆研修会の主な内容

1. 小樽防災対策室より講師を招き、「もしもの備えと心がけ」についての研修と避難所運営のための意見交換。
2. 地域内の避難行動要支援者の名簿や地図を作成し、緊急時の避難行動に役立てるため入船地区連合町会内の交流。
3. 非常食、携帯食を実際に食べ経験することから、災害時に必要なことや不足するものについて考える。

◆研修会の成果

自助として、「もしもの備え」について各自で準備していくことが必要である。災害時には正確でない情報（デマ情報）が市内でも実際に広がったことがあったので、公的な災害情報とともに、地域情報（FMおたる）や防災無線の活用が重要である。

災害時、どこの避難所に行っても良いのかわかりにくく、地区の指定避難所より他地区の避難所が近い場合の対処について質問があり、災害対策室からの説明で、空きがあればどこの避難所に行っても良いことがわかり、日ごろの誤解を解消することができた。

非常食を実際に食すことにより、必要なものを確認することができ、食事場所での運営の仕方について、他人任せではなく自分事として捉える機会となった。

災害時の避難行動要支援者の個別避難について、地区連合町会内の交流を実施した。町会内の高齢者名簿を町会マップに記載することにより、小樽市に登録された要支援者と共に災害時の避難行動に役立てていけるのではないかと、具体的な行動計画については、町会内で今後も話し合っていくことを確認した。



避難行動要支援者について地区連合町会内の交流

■小樽市

●東小樽町会

～災害は忘れたころにやって来る～

小樽市の防災体制と我が家の防災対策講習会

【実施日】 令和4年9月22日（木）

【世帯数】 3,568世帯

【参加者】 町会住民24名

【協力】 小樽市災害対策室

【目的】 自然災害の防災、減災を目的に、小樽市災害対策室から講師を派遣いただき、小樽市の防災体制の現状と各家庭でできる防災対策について講習を受ける。

◆研修会の主な内容

講師は小樽市総務部災害対策室の主幹をお願いし、お話をいただいた。

1. 小樽市を中心とした官民が連携した防災対策のネットワークの説明
2. 過去に発生した小樽市の災害の事例紹介を基に、災害が発生した場合の情報入手方法や避難行動の警戒レベル1から5の説明
3. 災害が発生した場合の行政（公助）、自助（自分や家族など）、共助（地域や近隣の人）の連携と必要性の説明
4. もしもの場合に備えて、避難経路や避難所の事前確認、防災グッズや備蓄品を用意することや近隣住民との良好な関係づくりについて説明



防災対策のネットワークを説明

◆研修会の成果

小樽市における防災対策のネットワークの現状を確認できたことと、普段見ることがない防災に関する情報の種類、見方、入手方法について理解することができた。また、自助の重要性と近隣住民との普段からの良好な関係づくりが、もしもの時に役に立つことを確認した。

■芦別市

●西宮元町町内会

【実施日】 令和4年10月1日（土）

【世帯数】 375世帯

【参加者】 区長、民生児童委員、計8名

【目的】 各区ごとに要支援者を的確に把握し、一人の不幸も見過ごさずことなく避難支援する。

◆研修会の主な内容

1. 芦別市避難行動要支援者名簿により、各区ごとに振り分ける。
2. 町内会図面に各区長が要支援者をマップに記入。

◆研修会の成果

災害時避難指示、確認がスムーズになる。



要支援者をマップに記入

～初期消火と救命処置を学ぶ～

防災活動研修会

【実施日】 令和4年6月28日（火）、10月25日（火）

【世帯数】 105世帯

【参加者】 町内会員25名

【協力】 滝川地区広域消防事務組合芦別署

【目的】 初期消火の大切さ、救命処置の流れ（心肺蘇生とAEDの使用）

◆研修会の主な内容

1. 避難訓練と消火器の取扱い訓練
2. 心肺蘇生法の手順を練習
3. AED操作・手順練習
4. 心臓マッサージの方法

◆研修会の成果

AEDについて、知っている人は参加者の中に3人だけでした。

このような救命器具があることを知っただけでも成果があった。

どこにあるかが今後の課題。



心肺蘇生法の手順を学ぶ

■江別市

●高砂町自治会

【実施日】 令和4年10月1日（土）

【世帯数】 420世帯

【参加者】 自治会員31名

【協力】 江別市総務部総務課

【目的】 地域で想定される災害の備えと避難所となる市民会館の運営方法について、みんなで考える。

◆研修会の主な内容

1. 町内のつばめ公園に集合し、江別市民会館まで徒歩で避難。
車椅子の避難行動要支援者へのケア訓練も実施。
2. 避難者の受け入れ（消毒・体温測定）と名簿作成。
3. 講師による地域で想定される災害の説明、市民会館が避難所としてどう使われるかの説明を聞く。
4. 段ボールベッド・間仕切りの作成を実際に体験。

◆研修会の成果

地域で発生が想定される災害への関心は高く、多くの質問が出た。避難所として市民会館がどう使われるのか、どんな設備があるのか、その運営方法を聞き、参加者は安心したようだった。段ボールベッド・間仕切りの作成では、実際の居住スペースを実感してもらえた。

～避難所の運営方法を考える～

コロナ下での災害に備える高砂町自治会防災訓練



江別市民会館まで徒歩で避難

■三笠市

●幾春別連合町内会

【実施日】 令和4年10月15日（土）

【世帯数】 150世帯

【参加者】 連合町内会地域住民40名

【協力】 三笠市消防団第2分団・前幾春別分団 防災マスター資格者

【目的】 地域における災害発生の危険を認識し、災害の発生時には最小限に抑えるための行動の訓練、日ごろからの備え等を学び、防災意識の高揚を図る。

◆研修会の主な内容

1. 災害発生時における地域住民と各機関に連携について、当地区の自主防衛組織の体制を再確認した。
2. 当地区の地図を基に危険箇所と防災意識の高揚、避難場所の確認・非常時等の日常の備え・近隣の把握と行動などを、改めて考え直す機会となった。
3. 三笠市内の過去における水害の事例（雨量の数値・雨の強さ・住宅浸水の箇所）を資料と映像で説明してもらった。

◆研修会の成果

災害時には、自分の身は自分で守る努力を考え直した。

～自分の身は自分で守る努力を～

防災活動講習会



三笠市内の過去の水害事例を学びました

■三 笠 市

●山の手連合町内会

【実施日】 令和4年9月18日（日）

【世帯数】 800世帯

【参加者】 連合町内会員30名

【協 力】 三笠市消防本部

【目 的】 震度5強の地震が起こると仮定して、コロナ禍でもどう避難するかを体験するため、スマートフォンから災害を認知できるように、スマートフォンの活用を推進する。

◆研修会の主な内容

1. 山の手連合町内会会長兼防災マスターからのお話
2. 三笠市消防生活安全センターからのお話

◆研修会の成果

参加者は真剣に話を聞き、災害時に山の手市民センターや社会福祉協議会などの公共施設にW i - F iや携帯の充電設備があることを知る機会になった。



災害時に必要な設備の説明

～公共施設の設備を知ろう～

○ 未来に向かって支え合うまちづくり ○

■三 笠 市

●萱野連合町内会

【実施日】 令和4年7月15日（金）

【世帯数】 52世帯

【参加者】 連合町内会地域住民80名

【協 力】 三笠市消防本部、三笠手話の会、陸上自衛隊岩見沢駐屯地、地域住民

【目 的】 避難所生活を体験しないと気付かないことに気づいてもらう。
住民の防災意識を高める。

◆研修会の主な内容

1. 説明（日程・注意事項等）
2. 夕食（地域住民による炊き出し）
3. 講演（自衛隊の災害派遣から）
4. 手話体験
5. 避難所疑似体験
（段ボールで自分のスペースを作ろう！）

◆研修会の成果

実際は宿泊せず、2日間の予定を実施することができなかった。それでも、段ボールでベッドやプラ



段ボールベッド作りを体験

イバートスペース作り体験を行えた。自衛隊の方のお話を真剣に聞いていた。障害がある方も避難するのでそのときに助け合うこと、協力して避難所生活を送ることが必要であると気づいた。

～今だからこそ「つながる」一日に～

○ 避難所生活を体験してみよう！ ○

■千歳市

●寿町内会

【実施日】 令和4年5月29日（日）

【世帯数】 520世帯

【参加者】 町内会員138世帯・役員25名

【目的】 75歳以上の高齢者および障がい者の世帯を対象に寿町内会館に本部を設置し、役員が安否確認を実施し、災害時における住民の把握を行う。

◆研修会の主な内容

1. 想定地震午前8時6分頃。1回目の安否確認は午前9時。
対象157世帯のうち126世帯確認。80.3%
2. 2回目の安否確認は午前9時50分。
対象157世帯のうち138世帯確認。87.9%

◆研修会の成果（今後の反省・課題）

- ・旧式トランシーバーのため、受信不良であったことから、高感度機能の機種との必要性
- ・訓練対象世帯の住居実態を利用するための充実整備の必要性
- ・訓練対象世帯に生活実態等に関して日常の町内会活動を通じての実態把握
- ・訓練を行うための町内会役員相互の情報共有化の活用促進

～役員による安否確認を無線で受信～

寿町内会防災訓練(KSセーフティネット作戦)安否確認



K Sセーフティネット作戦終了後の反省検討会

■千歳市

●福住町内会

【実施日】 令和4年9月4日（日）

【世帯数】 270世帯

【参加者】 町内会役員30名

【目的】 防災備品の活用と炊き出し方法を自主防災組織の役員が把握するため

◆研修会の主な内容

1. 防災備品（リヤカー・油圧ジャッキ・担架等）を災害時に使用できるよう把握する。
2. 町内会所有の発電機の使用確認
3. 町内会館調理室のプロパンガスによる炊飯とレトルト品の活用

◆研修会の成果

災害時における役員のスムーズな行動を確認。福住町内会の「火の用心」の旗を作成し、地域住民の意識高揚を図った。

～いざという時のため
防災備品の使用方法を確認～

福住町内会防災組織訓練



担架をセットして移動方法を確認

■恵庭市

●島松旭町町内会

【実施日】 令和4年8月21日（日）

【世帯数】 463世帯

【参加者】 町内会員150名

【協力】 恵庭市基地・防災課、恵庭市消防署島松出張所、恵庭市赤十字奉仕団島松分団、恵庭市社会福祉協議会、恵庭市きた包括支援センター、恵庭まちづくり協同組合、山崎製パン（株）札幌工場

【目的】 住民が防災に関する意識・知識を高めることにより最小限の被害に抑える活動

◆研修会の主な内容

1. 町内会組織による「炊き出し」習得訓練と配布時の住民とのふれあい
2. 大人から子供まで一人ひとり体験できる「消火器訓練」
3. 「車いす試乗」・「簡易担架」、親子体験による福祉・防災知識取得
4. 「福祉相談会」恵庭市社旗福祉協議会・恵庭市きた包括支援センター
5. 紙コップ・紙皿づくり「体験」と親子防災「ゲーム」による知識習得
6. 参加者全員によるシェイクアウト「訓練」

◆研修会の成果

コロナ禍のなかで屋外活動の規制緩和等により大勢の住民が参加し、大人から子供まで和やかな雰囲気ですべての防災知識の習得や福祉関係者による困りごと解決が図られ、大成功となった。

～大人も子供もみんなですタート～

防災まつり（防災訓練）



シェイクアウト訓練でゴール

■恵庭市

●駒場北町町内会

【実施日】 令和4年6月26日（日）

【世帯数】 170世帯

【参加者】 町内会員30名

【協力】 南消防署

【目的】 防災意識の向上

◆研修会の主な内容

1. 避難訓練
2. 消火訓練
3. AEDの使用法
4. 防災資材の説明

◆研修会の成果

防災意識の向上と初期消火、AEDの取扱いを習得できた。

～防災意識の向上にむけて～

防災訓練



消火器で初期消火を体験

■恵庭市

●大町町内会

- 【実施日】 令和4年10月2日（日）
- 【世帯数】 250世帯
- 【参加者】 町内会員28名
- 【目的】 大雨災害対策訓練のため

◆研修会の主な内容

1. 土のう砂つめ
2. 土のう運搬
3. 土のう設置

◆研修会の成果

土のうの砂のつめ方、土のうの積み方と勉強になり、万が一の時に役に立つ内容だった。



土のうの砂つめ作業

～大雨災害対策のために～

防災訓練

■当別町

●緑町町内会

- 【実施日】 令和4年10月23日（日）
- 【世帯数】 298世帯
- 【参加者】 町内会員24名
- 【協力】 石狩北部地区消防事務組合、当別消防署
- 【目的】 応急手当や救命処置の基礎知識、技能を習得し、そうした場面に出くわした際に慌てず冷静に対処できるようにする。

◆研修会の主な内容

1. 救急出動状況（統計）について
2. ケガや倒れた時の応急手当の方法について
3. 心肺蘇生法（体験含む）について
4. AEDの使い方（体験含む）について
5. 救急質問コーナー

◆研修会の成果

講師より、丁寧に応急手当や救命処置の方法等について学ぶことができ、生活するうえでの安心感と心構えを得られた。そういった場面に出くわした際には慌てず、出来る限りのことをしたいと思う。



心肺蘇生法体験の様子

～いざという時に慌てないために～

応急手当研修会

■俱知安町

●新東和会

- 【実施日】 令和4年10月1日（土）
【世帯数】 58世帯
【参加者】 会員家族及び近隣者13名
【協力】 羊蹄山ろく消防組合
【目的】 防災意識の把握と向上

◆研修会の主な内容

1. 消防署員による避難・防災についての講話
2. AED、消火器の使い方指導
3. 危険になりそうな箇所を確認、チェック

◆研修会の成果

羊蹄山ろく消防組合の協力により体験学習の内容を充実することができ、災害に対する日常的な心構えや災害発生時の行動などについて学習することができた。

～災害発生時の行動を学ぶ～

第2回新東和会避難訓練



消火器の使い方を指導

■枝幸町

●本幌別自治会

- 【実施日】 令和4年5月28日（土）
【世帯数】 10世帯
【参加者】 自治会員12名
【協力】 枝幸町、南宗谷消防組合枝幸消防署
【目的】 地域住民の安全な避難体制の確立を図るとともに、避難行動の習得を図る。
また、地域住民の防災に対する意識向上を図る。

◆研修会の主な内容

1. 避難訓練
2. 防災教育用DVD視聴
3. 消火訓練

◆研修会の成果

避難経路の再確認や災害に対する日ごろからの備えを再認識することができ、防災意識を高めることができた。

～避難経路の再確認と防災意識の向上～

本幌別自治会防災会防災訓練



消火器による消火訓練

■斜里町

●朝日町第三自治会

【実施日】 令和4年8月28日（日）

【世帯数】 236世帯

【参加者】 自治会員32名

【目的】 防災意識の高揚と自治会所有自家発電機の操作方法と自治会館非常電源としての接続方法の確認

◆研修会の主な内容

1. 発電機の操作方法と自治会館非常用電源としての接続方法の確認
2. 自治会自主防災計画による役員並びに各班班長・協力員の役割分担の確認
3. パンフレット「防災情報の集め方」の説明

◆研修会の成果

- ・自家発電機の操作方法の習得と非常用電源の接続方法の習得
- ・自治会自主防災計画による役員他関係者の役割分担の再確認
- ・総合的な防災啓蒙と防災意識の高揚が図られた

～自家発電機の操作習得と役割の再確認～

朝日町第三自治会防災訓練



役員や関係者の役割を再確認しました

■遠軽町

●西学田自治会

【実施日】 令和4年7月30日（土）

【世帯数】 175世帯

【参加者】 自治会役員、自治会員50名

【協力】 遠軽町、遠軽警察署

【目的】 自治会員個々の防災に対する意識の高揚を図る。実際の避難技術の習熟に努める。

◆研修会の主な内容

1. 避難勧告の伝達訓練～一次集合場所への集合、要援護者等の確認ほか
2. 指定避難場所への集団避難訓練～移動指示、要援護者の救護活動訓練（リヤカー使用）
3. 避難後の訓練～安否確認、被害状況の確認、ダンボールベッド製作、食事提供

◆研修会の成果

訓練の実施により、地域内の防災意識の高揚が一層高まった。緊急時における役割分担の大切さ及び協力し合うことの大事さが確認された。

～避難場所への集団移動と連動した要援護者の救護訓練～

西学田自治会防災避難訓練



要援護者の救護にはリヤカーを使用

■洞爺湖町

●泉区自治会

【実施日】 令和4年12月1日（木）

【世帯数】 305世帯

【参加者】 泉区自治会及び香川自治会会員15名

【協力】 洞爺湖町総務部企画防災課危機管理対策室、香川自治会

【目的】 泉区自治会の指定避難所(香川コミュニティセンター)となっている香川自治会と防災研修を実施することで、避難時における避難所対応について連携し、スムーズな避難行動と避難所での協力体制を整えるために、両自治会の相互理解を深めることを目的に研修会を開催した。

◆研修会の主な内容

1. 泉区自治会の避難先となる香川自治会との交流研修により、互いに避難情報と避難基準を確認し、有珠山噴火に伴う避難基準の再確認を実施。
2. 泉区、香川両自治会の実情や様々な課題を整理しながら、災害時に迅速な対応を行うための研修を行い、お互いの協力体制を構築できるよう災害対応について意見交換を図り、防災に対する意識の共有と認識を深める。

◆研修会の成果

泉区自治会として災害発生時におけるスムーズな避難体制の構築が図られるとともに、避難先となる香川コミュニティセンターでの香川自治会との合同研修の実施により、自治会相互の災害に対する意識向上と、避難時における協力体制の構築を図ることができた。

～避難所での協力体制を整える～

災害時の避難所運用対応に関する研修会



両自治会の課題を整理しながら意見交換

■白老町

●竹浦幌内東町内会

【実施日】 令和4年7月3日（日）

【世帯数】 66世帯

【参加者】 町内会員17名

【協力】 しらおい防災マスター会

【目的】 防災に関する意識の普及と啓発を図る。

◆研修会の主な内容

1. 講義：テーマ「誰一人取り残さない防災活動・近助」
講師：しらおい防災マスター会 事務局長
2. 改定後のハザードマップによる浸水地区の説明
3. 命を守る地震発生時の行動
4. 海とメップ川の津波で避難路が絶たれる際の注意事項
5. 冬場の避難（低体温症対策と車内避難）
6. 気象庁発行の関連資料2冊配布

◆研修会の成果

ハザードマップの見方及び浸水リスクの確認を学習できた。今後、非常持出用品の再確認と土砂災害についても学びたい。

～ハザードマップによる浸水リスクを学習～

防災出前講座



防災出前講座の様子

■白老町

●末広町第2町内会

【実施日】 令和4年11月6日（日）

【世帯数】 194世帯

【参加者】 町内会員14名

【協力】 しらおい防災マスター会

【目的】 防災マップの改訂に伴い、津波等の災害想定の変更点などを学び、自主防災組織の備えについて見直すことで、防災に関する意識の普及と啓発を図る。

◆研修会の主な内容

1. 北海道地域防災マスターとして活動されている方を講師に迎え、白老町防災マップの改訂ポイントについて理解する。
2. テーマ「誰一人取り残さない防災活動・近助」
講師：しらおい防災マスター会 事務局長
3. 質疑応答
4. 防災クイズの実施
5. 防災グッズのお試し品の配布など（アルファ米など）

～いのちを守る三原則が大事～

末広町第2町内会自主防災勉強会



自主防災勉強会の様子

◆研修会の成果

防災マップの改訂に伴う、特に津波の避難や備えの見直しの必要性。「近助」には、津波防災教育における「いのちを守る三原則」の「どんなときも全力を尽くす」ことが大事になることを啓発できた。

■白老町

●虎杖浜第1町内会

【実施日】 令和4年11月9日（水）

【世帯数】 204世帯

【参加者】 町内会員13名

【協力】 しらおい防災マスター会

【目的】 近年頻発傾向にある地震・津波等の災害に対し、意義の継続と普及を目的に出前講座を開催する。

～備えと迅速な行動の大切さを学ぶ～

防災津波に関する学習会

◆研修会の主な内容

1. 地震・津波等の災害から命を守るためのスライドを用いた講習会として開催する。
2. テーマ「誰一人取り残さない防災活動・近助」
講師：しらおい防災マスター会 事務局長
3. 質疑応答
4. アルファ米、缶詰などの非常食を体験用として配布。



防災津波学習会の様子

◆研修会の成果

防災マップの改訂ポイントの理解。津波到達予想時間が短縮され、備えと迅速な行動の大切さを学んだ。

■安平町

●追分第2町内会

- 【実施日】 令和5年1月30日（月）
【世帯数】 32世帯
【参加者】 町内会役員及び会員10名
【協力】 胆振東部消防組合安平消防団追分分団・追分出張所
【目的】 自主防災組織体制の具体的な充実と継続的検討。
役員及び会員のための救急救命基礎知識の習得。

◆研修会の主な内容

1. 災害時、要援護者（特にひとり暮らしの高齢者）の安否確認等に隙間がないようにするための対応表等の更新検討・作成（継続審議及び調整中）
2. 自主防災組織体制の人員配置更新検討（継続審議中）
3. 安平消防団追分分団と追分出張所の協力を得て、救急車が到着するまでの応急手当講習を追分分団の団員と共に受講した。
4. AEDの操作方法や心臓マッサージ等の心肺蘇生法など。

◆研修会の成果

コロナ禍のため十分な会議ができず成果は継続検討となった。

救命救急には日常的な心停止予防と勇気を持って心肺蘇生を行うことの大切さを学び、広く会員等へ周知していきたい。

～自主防災組織の充実と救急救命を習得～ 第2町内会自主防災組織運営会議及び救急救命研修会



救急車が到着するまでの応急手当講習

■本別町

●南2丁目自治会

- 【実施日】 令和4年10月16日（日）
【世帯数】 153世帯
【参加者】 自治会員48名
【協力】 本別町
【目的】 住民の防災意識の向上及び実際に防災資機材を体験することにより、避難所生活について知る。

◆研修会の主な内容

1. 本別町住民課職員より防災に対する情報提供
2. コロナ禍における避難体制と避難所の心得
3. 実際に本別町の避難所で使用される災害用室内テントや段ボールベッドの体験、災害備蓄食料の試食

◆研修会の成果

防災に関する知識を身に付けることができた。テントや段ボールベッド等、実際に使用される防災資機材を体験することで、避難所生活に対する知識を身に付けることができた。

～避難所生活での知識を身に付ける～

防災研修会



災害対策用プライベートルームの体験

■釧路町

●遠矢町内会

【実施日】 令和4年6月26日（日）

【世帯数】 153世帯

【参加者】 町内会員25名

【協力】 釧路町防災安全課防災対策係

【目的】 遠矢町内会自主防災組織の立ち上げ後、防災組織の意義と題して研修会を行い、会員に目的を理解してもらおう。

◆研修会の主な内容

1. ハザードマップについて
釧路町のハザードマップの種類、見方、活用方法
2. 自主防災について
自主防災組織の目的、活動の仕方
3. 自主防災組織の活動事例
大雨、地震のそれぞれの事例

◆研修会の成果

自分たちが住んでいる地域が、津波、洪水の自然災害にあった場合、どの様に行動したら良いか、自主防災組織の役割、活動が理解できたので、今後は自主防災訓練で知識を養っていく。

～自主防災組織の役割や活動を学ぶ～

自主防災研修会



自主防災組織の活動事例を学びました

災害に強いまちづくり全道運動

道町連共済会員還元事業

令和4年度 防災活動研修会支援助成事業実施要綱

1 目的

近年、全国各地で度重なる地震や台風のほか、気候変動等による影響により、大きな災害の発生やこれまで該当しないと思われていた地域においても災害の発生が懸念されています。また、昨年末に内閣府が公表した巨大地震による太平洋沿岸の被害想定では、北海道は主に津波による死亡が最大13万7千人と示され、行政のみならず、企業、地域や個人で対応できる備えが必要とされています。改めて地域における住民主体の「防災訓練」や「避難訓練」、「自主防災組織づくり」等の取り組みが強く望まれます。

大きな災害では、地域住民の連携と協力による情報伝達や避難誘導、災害時要援護者への支援、避難所運営等の組織的な行動が、減災に大きな力を発揮することから、町内会・自治会における、地域の支え合う関係づくりが期待が寄せられています。

そこで、本助成事業は、災害に強いまちづくり全道運動として、単位町内会及び地区連合会において実施される防災訓練や自主防災組織研修会等に対して、道町連共済の会費収入を財源に助成を実施し、安心・安全な町内会活動を応援します。

2 事業の実施主体と助成対象

単位町内会及び地区連合会

※道町連共済に加入する組織に限定します。

3 助成の対象となる研修会

道町連共済に加入する単位町内会及び地区連合会が主催あるいは共催する研修会等

本年度は、昨年度（令和3年度）同様に新型コロナウイルスの感染予防に配慮しながら、安心・安全な研修会をすすめていただくようご案内いたします。

なお、本年度より会員還元事業としての目的を徹底するため、助成対象を道町連共済に加入する組織に限定します。

（具体的な研修会例）

- 炊き出し訓練、防災講習会、防災マップづくり、災害図上訓練（DIG）
- 自主防災組織研修会、自主防災組織づくりのための会議、避難所運営訓練
- 災害時要援護者世帯調査・マップづくり、安心・安全関係者ネットワーク会議
- 応急手当研修会、救急救命研修会 等

4 申請の要件 1 正会員組織3カ所まで

※本助成は会員還元事業として、助成対象を道町連共済に加入する組織に限定します。

5 助成金額 1カ所 20,000円

6 助成枠 100組織 / 予算200万円

（本助成は、道町連共済の会費収入を財源にしています。）

7 申請書の提出

助成を希望する正会員組織は、別添申請様式により、要綱（案）を添付の上、下記事務局に申請してください。なお、申請書の様式は、本会ホームページの「会員専用ページ」よりダウンロードできます。

8 申請にあたってのお願い

本助成事業は、安心・安全な町内会活動を応援するための道町連共済会員還元事業として、道町連共済の会費収入を財源に平成17年度より実施しています。申請にあたりましては、本事業が道町連共済の事業費によって実施されていることを単位町内会等へ周知いただくとともに、道町連共済へのより一層の加入促進にご協力くださるようお願いいたします。

9 申請書の提出期限 令和4年8月5日（金）

10 助成の決定と送金

- 1) 希望が多数の場合は、北海道町内会連合会正副会長会議において協議のうえ決定します。
- 2) 助成金の決定と送金は9月中旬に行う予定です。

11 報告書の提出

別添報告様式により、資料及び写真を添付の上、令和5年2月3日（金）までに下記事務局に報告してください。なお、報告書の様式は、本会ホームページの「会員専用ページ」よりダウンロードできます。

12 申請並びに報告先

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2.7 2階
一般社団法人 北海道町内会連合会事務局
Tel 011-271-3178 / Fax 011-271-3956
ホームページ <http://www.d-choren.or.jp>
メールアドレス info@d-choren.or.jp



令和4年度
防災活動研修会支援助成事業実施報告書

災害に強いまちづくり 全道運動

令和5年3月 発行

一般社団法人 北海道町内会連合会

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2.7

TEL 011-271-3178

FAX 011-271-3956

E-mail: info@d-choren.or.jp

<http://www.d-choren.or.jp>